



大学女子テニス選手におけるエラーの起きた状況とその発生要因に関する研究

平田大輔^{1,5} 柴原健太郎⁵ 佐藤周平² 村上貴聡³ 森井大治⁴ 佐藤雅幸¹ 西條修光⁴
¹専修大学 ²青山学院大学 ³東京理科大学 ⁴日本体育大学 ⁵日本体育大学大学院



はじめに

テニスの指導において、アンフォースドエラー（以下：UE）を減らすことが重要視されている。平田ら（2014）は、大学女子選手のUEについてフォアハンドストローク、クロスラリー、ダブルフォルト、セカンドサーブのリターンといった試合でよくみられる状況でのUEが多いことを明らかにしている。しかし、同じエラーであっても相手や自分の状況やポジションにおいても原因が異なってくると考えられる。

そこで、本研究ではKH Coderを用いたテキストマイニングにより大学女子選手が試合でおこるUEの原因について分析を行い、エラーの原因の特徴語を検討した。

方法

対象は大学女子テニス選手10名であった。年齢 19.5 ± 0.85 歳、テニス競技歴 13.3 ± 1.41 年であった。いずれも全国大会レベルの出場経験のあるものとした。試合形式は8ゲームマッチとし、分析はポイントの最終ショットについて、「カウント」「ショット」「フォアハンド・バックハンド」「アウト・ネット」「エラーしたコース（クロス・ストレート）」「相手の打ったコース（クロス・ストレート）」「ポジション1（フォアサイド・センター・バックサイド）」「ポジション2（ディフェンス・アタック・フィニッシュ）」「ラリー数」についての分析と選手がUEだと思ったショットの後に、その理由についてICレコーダーで録音をした。UEの原因についてはUE301ポイントの内、ICレコーダーによる録音の不備を除く299ポイントを分析対象とした。

分析は計量テキスト分析、KH Coder 2.Beta.29eを使用し、ゲーム分析で得られた情報とエラーの原因との関係から状況によってどのようなエラーの原因がみられるかみた。

結果

1. 特徴語の分析

1) アウト・ネット・サイドアウトによる違い（表1）

アウトでの特徴として、「前」のボールの処理、ボール「回転」「スウィング」に関する内容であった。サイドアウトの特徴として、「狙う」「決める」といった内容や「相手」や「自分」の状況に関する内容であった。ネットでの特徴として「（ポジションに）入る」「力み」「準備の遅さ（ポジションへの遅さの含む）」「タイミング（早い・遅い）」に関する内容であった。

表1 アウト・サイドアウト・ネットによる違い

	アウト	サイドアウト	ネット
アウト	.175	ミス	.222
思う	.168	狙う	.161
前	.157	思う	.145
足	.128	入る	.140
相手	.126	前	.128
回転	.109	相手	.105
振る	.096	自分	.100
後ろ	.087	入れる	.098
入れる	.084	決める	.096
ロブ	.070	アウト	.092
			早い
			タイミング

2) フォアハンド・バックハンドによる違い（表2）

共通してみられたものには「前」で、前のボールの処理がUEに繋がっていると考えることができる。

フォアハンドの特徴としては自分や相手の状況に関する内容や「足」「身体」といった準備や技術的な内容であった。また、「狙いすぎ」してしまうことも原因になっている。

バックハンドの特徴は「後ろ」「深い」といったボール軌道やポジションに関する内容であった。

表2 フォアハンド・バックハンドによる違い

	フォアハンド	バックハンド
打つ	.346	ボール
ボール	.275	ミス
ミス	.256	思う
入る	.168	前
前	.147	バックハンド
相手	.146	後ろ
足	.141	深い
アウト	.127	見る
狙う	.117	スライス
遅い	.116	スタンス

4) コースチェンジの有無による違い（表4）

コースチェンジ有りの特徴として「相手」「前」といった状況に関する内容と「入る」「足」「遅い」といった準備に関する内容であった。コースチェンジ無しの特徴として「身体」「振る」といった技術的な問題であったり、「後ろ」「高い」「クロス」といったボールの状況に関する内容であった。

表4 コースチェンジの有無

	あり	なし
ボール	.284	打つ
ミス	.264	ボール
思う	.189	アウト
相手	.155	身体
入る	.149	振る
前	.148	サーブ
足	.142	後ろ
遅い	.121	高い
アウト	.110	クロス
自分	.100	返す

3) エラーしたコースによる違い（表3）

クロスでの特徴では「打ち」過ぎ、「狙い」過ぎといった内容や「前」のボールや「足」といった原因がみられた。ストレートでの特徴では「決める」といった力みにつながるものや「前」のボール、準備が「遅い」といった内容であった。逆クロスでの特徴では「回り込む」「足」といった内容で、であった。また、「決める」といった力みにつながるものもみられた。

表3 エラーしたコースによる違い

	クロス	ストレート	逆クロス
打つ	.303	打つ	.284
ボール	.299	入る	.162
ミス	.265	前	.152
思う	.172	相手	.143
前	.146	遅い	.139
足	.131	アウト	.135
相手	.129	決める	.095
身体	.110	ストレート	.091
自分	.104	自分	.089
入れる	.102	打点	.077
			クロス

まとめ

大学女子テニス選手のUEの原因は「前のボールの処理」「準備の遅さ」といった状況判断に関わる原因がみられた。また、「フォアハンド」「コースチェンジ有り」「逆クロス」といった有利なと思われる状況においては技術的な原因がみられることが明らかになった。

特に、有利なと思われる状況では先のことを意識しすぎることによりUEがみられることから、大学女子テニス選手がUEを少なくするためにはエラーの起こるであろう状況での正確な判断を行いプレーする必要がある。